

世界遺産を掘る 第 7 回

— 西本願寺 —

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 近藤 章子

1 はじめに

西本願寺は、境内が平成 6 年（1994）に国の史跡に指定され、同年には「古都京都の文化財」として世界遺産に登録されました。国宝、重要文化財、特別名勝、名勝、史跡、天然記念物など、同一敷地内に多種多様な文化財が重なりあう地域です。

2 歴史的背景

境内地は平安京左京七条二坊に該当し、南半分が東市跡、北半分が東市外町跡と推定されています。この東市は、平安京遷都当初から官営の市場として設けられ、市司いちのかさによって管理・運営が行われていました。鎌倉時代には空也上人を祀る堂が建てられ、一遍上人が踊念仏を興行していたところとされています。本願寺移転直前まで、この土地には市屋道場金光寺という時宗寺院や市町の守護神として祭られた市姫神社などがあったとされています。しかし、鎌倉時代後期頃から本願寺移転直前期まで、現在の境内地内がどのように利用されていたのかは分っていません。

3 本願寺の歴史

本願寺は鎌倉時代に浄土真宗を開いた親鸞の墓所が始まりです。弘長 2 年（1263）に没した親鸞は東山鳥辺野の北、大谷に埋葬されました。その後、末娘の覚信尼が東山吉水の北に遺骨を改葬して、六角の廟堂を創建し親鸞の木像坐像を安置しました。これが御影堂です。

建武 3 年（1336）、足利尊氏入京の際の争いにより、御影堂は焼失します。その後再建され、御影とは別に本尊の阿弥陀如来立像を安置するための阿弥陀堂が創建されます。これにより、阿弥陀堂と御影堂が南北に並ぶ両堂形式となります。

康正 3 年（1457）に蓮如が第八世を継承します。蓮如は近江南部などを中心に布教を進めました。比叡山衆徒の反感を呼び、東山大谷の本願寺は破却されます。蓮如は大谷から近江の金森、堅田、大津などの地を転々とし、文明 3 年（1471）に越前吉崎に逃れます。吉崎を布教の地として北陸地方を中心に門徒を増加させますが、内紛に巻き込まれ、再び河内出口、撰津富田を経て、文明 10 年（1478）京都山科に本願寺を再興します。しかし、この山科本願寺は天文元年（1532）、法華宗徒と近江の六角定頼の連合軍によって攻撃され、焼亡します。

その後、大坂石山に移りますが、元亀元年（1570）から天正 8 年（1580）、10 年以上に渡る織田信長との戦いを経て和睦の後、紀伊鷲森さぎのもり、さらに和泉貝塚に移り、豊臣秀吉の寄進を得て大坂天満に移転します。

天正 19 年（1591）、秀吉より京都七条堀川（現在の地）の地を寄進され、京都に移転します。同年、堂舎の建立が始まり、御影堂は天満本願寺から移建されました。

慶長元年（1596）の大地震、元和 3 年（1617）の火災などにより、御影堂、阿弥陀堂など

本願寺年表

年号	西暦	宗主	事項
弘長 2	1262	親鸞	親鸞没（90 歳）。鳥辺野に埋葬。
文永 9	1272		覚信尼の住居地に改葬、六角の廟堂に親鸞の木像坐像（影像）を安置（東山吉水北）。
建治 3	1277		覚信尼、御影堂の留守職につく（大谷）。
建武 3	1336		足利尊氏入京の争乱により御影堂焼失。
永享 10 ころ	1438	存如（7 世）	堂舎の造営、御影堂と阿弥陀堂の建立。
康正 3	1457	蓮如（8 世）	蓮如第 8 世を継職。
寛正 6	1465		比叡山宗徒により東山大谷の本願寺破却。後に、越前吉崎（福井）へ。
文明 1 0	1478		山科野村（京都、山科）に山科本願寺造営開始。
明和 8	1499		蓮如没する（85 歳）。
天文元	1532		近江守護六角定頼、法華宗徒などにより山科本願寺焼失。
天文 2	1533	証如（10 世）	撰津大坂の石山坊舎を本寺とする。
天文 11	1542		阿弥陀堂建立。
天文 12	1543		在来の御堂を御影堂とする。その他堂舎、寝殿など内陣を整える。
天文 23	1554		証如没する。
永禄 7	1564	顕如（11 世）	火災による類焼。
永禄 8	1565		阿弥陀堂、御影堂再建。
天正 8	1580		紀伊鷲森へ移転 石山本願寺焼失。
天正 10	1582		織田信長、本能寺にて自害。
天正 11	1583		和泉貝塚に移転。
天正 13	1585		関白となった豊臣秀吉により大坂天満に寺地を与えられ、移転、阿弥陀堂建立。
天正 14	1586		御影堂建立。
天正 19	1591		秀吉により京都に寺地を与えられ、移転 天満の御影堂移転。
文禄元	1592		顕如没する、教如継職。
文禄 2	1593		秀吉の命により准如継職、教如退隠する。
慶長元	1596	准如（12 世）	地震により御影堂倒壊。
慶長 3	1598		秀吉没する。
慶長 7	1602		徳川家康により本願寺が東西に分流され、教如を住職とした京都東六条の地（東本願寺）を寄進される。
慶長 16	1611		宗祖 350 回忌、慶長の大改修。
元和 3	1617		寺内浴室から出火、全焼する。
元和 4	1618		阿弥陀堂再建。
寛永 7	1630	良如（13 世）	准如没する。
寛永 13	1636		御影堂再建。
宝暦 10	1760	法如（17 世）	仮堂であった阿弥陀堂の再建。
慶応元	1865	明如（21 世）	太鼓楼、北集会所が新撰組の屯所となる。
大正 2	1913	鏡如（22 世）	御影堂、阿弥陀堂が特別保護建造物に指定。
昭和 25	1950	勝如（23 世）	御影堂、阿弥陀堂が重要文化財に指定。
平成 6	1994	即如（24 世）	本願寺境内地が史跡に指定、世界文化遺産に登録。
平成 26	2014	専如（25 世）	御影堂、阿弥陀堂が国宝に指定。

主要な建物が焼亡します。その後再建され、寛永13年（1636）に御影堂は再建され、宝暦6年（1756）から宝暦10年（1760）にかけて阿弥陀堂が新築されました。この後も、屋根の修復を中心として数度の修復を重ねながら、現在に至っています。

4 境内地の主な調査

- 調査1** 自然流路、平安時代の井戸、柱穴、溝、江戸時代中期の庭園遺構などを検出。
- 調査2** 平安時代後期の井戸、堀川小路西側溝、室町時代の池状遺構、導水路、流路、桃山時代から江戸時代初頭の池跡などを検出。池跡は教如が隠通していた屋敷内の一部である。
- 調査3** 平安時代の小穴、鎌倉時代の井戸、室町時代の柱穴、江戸時代の建物跡、井戸などを検出。
- 調査4** 安土桃山時代末から江戸時代前期の池跡（旧池）、江戸時代前期の池跡（新池）と橋脚跡、江戸時代中期から明治時代の井戸、時期不明の井戸などを検出。旧池は元和3年の火災処理土で覆われていた。
- 調査5** 江戸時代中期の石塁を確認。これは修景と防火壁の役割を持っていたと思われる。
- 調査6** 平安時代末期から鎌倉時代初頭の溝、土坑、江戸時代の建物跡、井戸、瓦列、土坑などを検出。建物は寛永の御影堂再建時に伴う整地層上面で検出。大量の肥前磁器を含む土坑を検出。
- 調査7** 名勝滴翠園の整備事業に伴う調査。旧醒眠泉、滝石、船着場などを検出。作庭初期から現代に至る庭園の変遷が判明した。
- 調査8** 平安時代中期の溝、平安時代後期の井戸や土坑、平安時代末から鎌倉時代の井戸、溝、鎌倉時代の井戸、土坑、江戸時代前期の井戸や土坑、江戸時代中期から後期の井戸や土坑群、江戸時代後期の建物跡、南北境界溝とこれに並行する溝、土坑、柵列、近代から現代の井戸などを検出。
- 調査9** 平成18年から3年に渡り防災施設工事に伴う調査を実施。これまでの境内地における最大の面積と距離を調査し、各調査では本願寺関連の遺構を検出。
- 1 排水施設を検出。（A・B・C・D）
 - 2 鋳造関連遺物の出土。（H）
 - 3 滴翠園内の暗渠を検出。（F）
 - 4 黒書院北で半地下式の通路を検出。（G）
 - 5 大正時代のテニスコートの検出。（C）
 - 6 南能舞台再建の足場。（E）

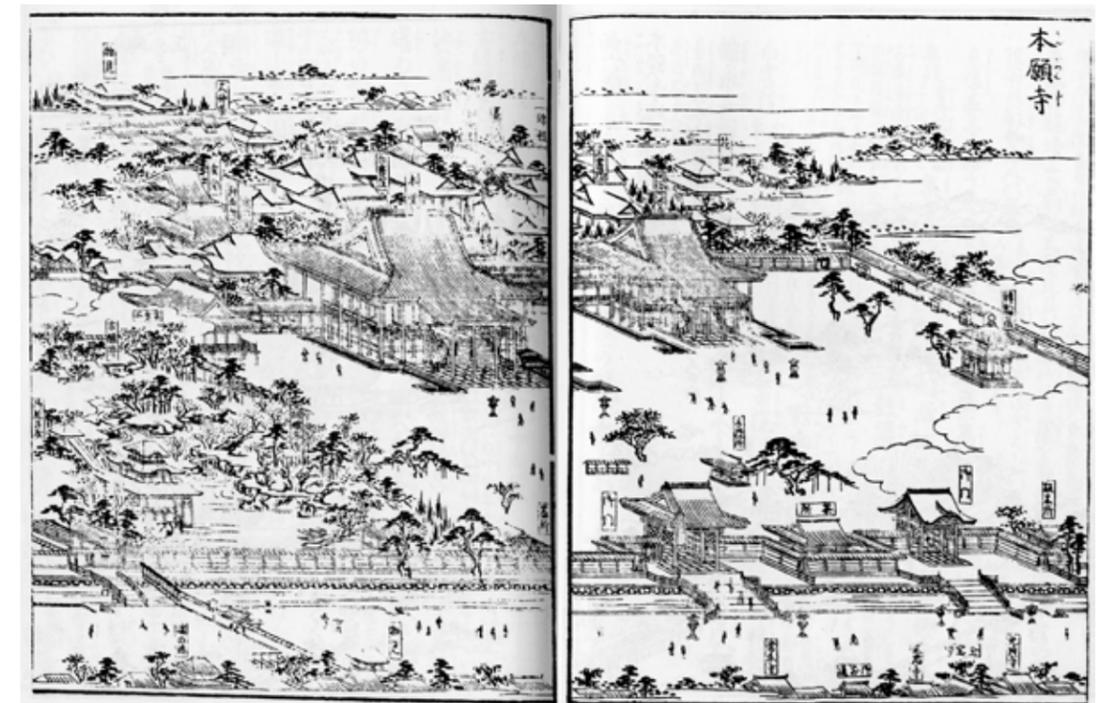
※調査1は本願寺境内地学術調査会、他は公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が調査。

参考文献

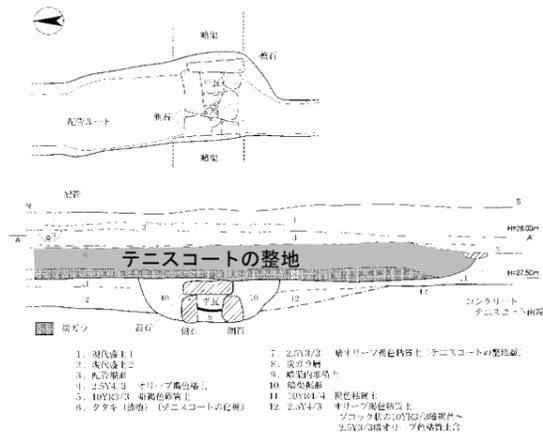
- 「本願寺防災施設工事・発掘調査報告書」 宗教法人 本願寺 2009年
「名勝滴翠園記念物保存修理事業報告書」 宗教法人 本願寺 2009年



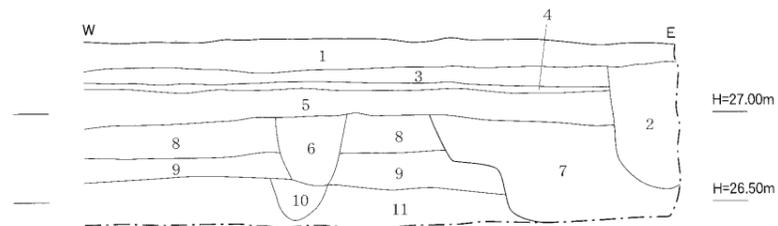
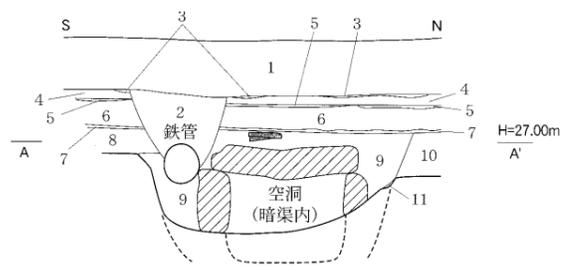
空からみた本願寺



都名所図絵 安永9年（1789） 本願寺



C地点暗渠とテニスコート



D地点暗渠

1. 砕石
2. 配管掘削
3. 10YR4/2 灰褐色砂泥
4. 10YR4/4 褐色細砂
5. 10YR2/2 黒褐色泥砂
6. 10YR3/1 黒褐色泥砂
7. 10YR3/2 黒褐色泥砂 鉄滓多量含、フィゴ含(廃棄土坑)
8. 7.5YR3/4 黒褐色泥砂 I 砂粒多量含
9. 7.5YR3/2 黒褐色泥砂 II
10. 10YR2/3 黒褐色泥砂
11. 10YR3/1 黒褐色泥土 III

E地点鑄造関連



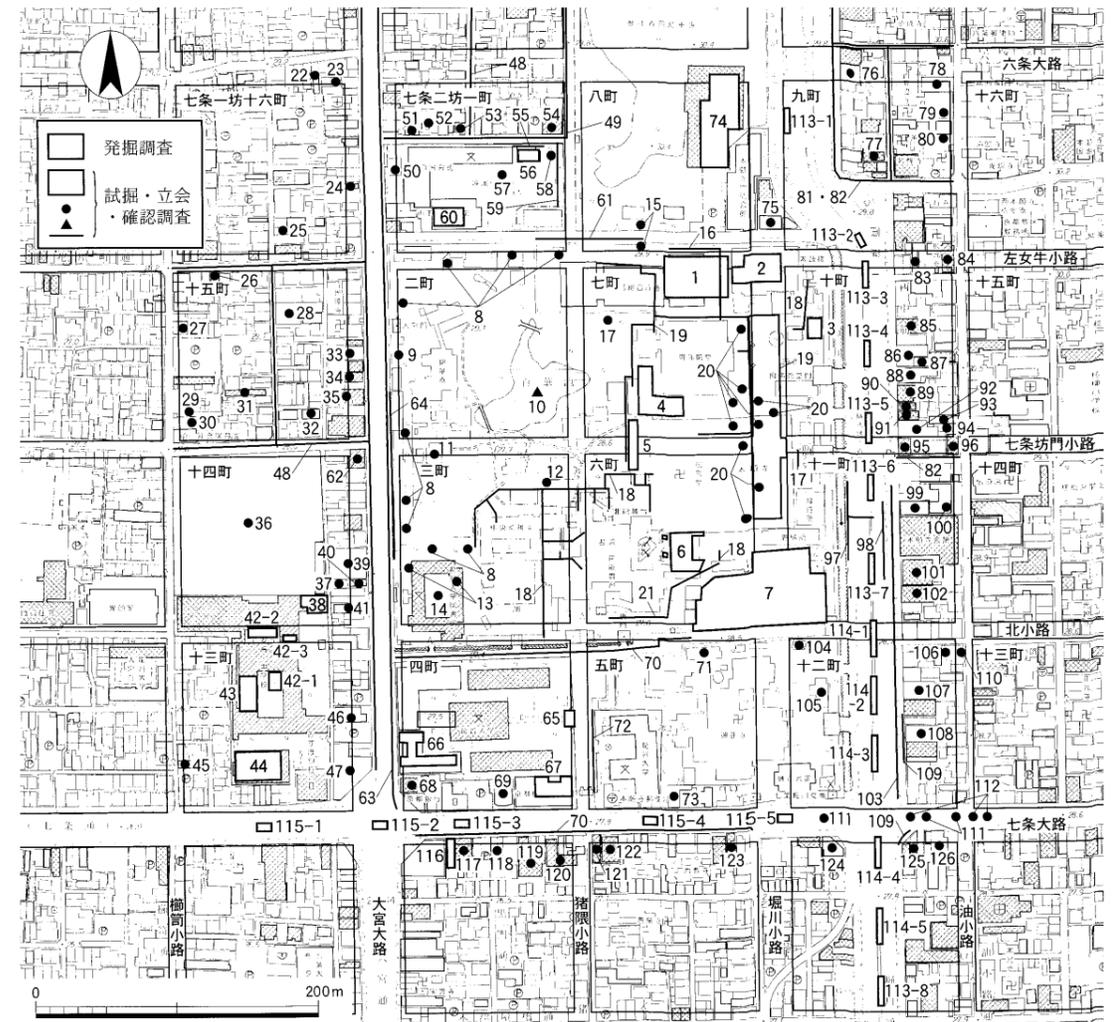
E地点出土 フィゴの羽口と鉄滓

調査9

F地点(滴翠園)暗渠

(南西から)

調査9



本願寺周辺の調査位置図